

社会全体がコロナに対する認識や対応が随分変わってきたように思います。現在の欧米諸国の様子を見ていると、スポーツ観戦や街中でもほとんどの人がマスクをしていません。もうコロナにかかっても大丈夫という認識に至っているのか、日本のような同調圧力のようなものがないからなのか、マスクをするもしないも個人の自由だ、といった印象を受けます。

日本はどうでしょう。未だに電車や街中でもほとんどの人がマスクをしています。スポーツ観戦や様々なイベントが再開しつつあるものの、まだまだマスク着用や人数制限など、対策を講じることがセットになっているような状況です。そんな中、厚生労働省から出ている通知では「屋外は原則不要」「屋内は2mの距離と会話なしの状況以外はマスク着用」を求めています。

子どものマスク着用については、就学前の子どもは基本的にはマスク着用を推奨していません。小学校以上（児童・学生）については、屋外においても屋内においても「人との距離2m、会話なし」を条件にマスクなしとしています。

あるヨーロッパの国で、コロナ禍における「子どもとマスク」に関する調査・研究チームが出した分析結果によると、コロナが始まった時に生まれて、現在の1歳～4歳くらいの子どもの「言葉の遅れ」や「対人関係における不安定さ」を抱える子どもがコロナ前に比べて増えているという報告結果を出しました。

その原因の中に、「子どもと関わる大人がマスクをしていることで大人が子どもに話しかける際の口の動きや表情が見えない」ことが原因の一つであるとの指摘をしました。また、対人関係の不安定さについては「人と人との距離をとる（密を避ける）ことで、大人と子どもの接触、子ども同士の接触が極端に減少したことが不安定さの原因である」ことも指摘しました。

これを受けた政府は、子どもの重症化率の低さやワクチンや検査などの対策も講じつつ、積極的に国民に「マスク着用は個人の意思に委ねる」「子どもの養育や教育に関わる者のマスク不用を推奨する」としたそうです。

日本はまだまだ大人がマスクを自由に着けたり外したり、ということが難しい（というより世間の目や賛否が気になる）のが現状です。私自身「じゃあ明日から職員全員マスクなしにします！」と言えないのが本音です。でも、子どもたちがコロナにかかってしまう心配よりも、乳幼児期に人間として育つ上で大切な「人の表情や口の動きを見て言葉を獲得」したり、「身近な大人や子ども同士でたくさん触れ合う経験（体感）」をせずに、大人になっていく子どもたちの将来の方がずっと心配です。

そんな中で、今できることはあるはずで、最近、低年齢児だけでなく4歳児や5歳児でも「抱っこ」を求めてくる子が増えてきたように思います。子どもが抱っこ求めてきた時は、できるだけ抱っこするようにしています。（保育士は腰痛になるリスクもありますので、膝に座らせてあげたり、ハグしたり、とできる範囲で良いと思います）屋外や離れている時やガラス越しではできるだけマスクを外して子どもとたくさん会話しようと思います。

乳幼児だけでなく、小学校以上の学生や若者たちも、この数年間、自粛や様々な制約で、知らず知らず人間の本能や生理的な「触れ合い」や「会話を通して心を通わせる」など、人と関わる中で体感できる温かみや安心感を求めていると思います。

そろそろ日本も感染対策より子どもたちにとってもっと大切な対策をしていかななくてはいけないのではないのでしょうか。